

<p>『ゾラの生涯』（原題 <i>The Life of Emile Zola</i>）</p> <p>1937年</p>	<p>執筆：清水 純子</p>
<p>制作国</p>	<p>アメリカ</p>
<p>スタッフ&amp;キャスト （監督、脚本家、俳優、その他）</p>	<p>スタッフ：監督ウィリアム・ディターレ/ 脚本ノーマン・ライリー・レイン、ハインツ・ヘラルド、ゲザ・ハーゼック/ 原案 ヘインツ・ヘラルド、ゲザ・ハーゼック/ 製作総指揮ハル・B・ウォリス/音楽マックス・スタイナー / 撮影トニー・ゴードイオ</p> <p>キャスト：ポール・ムニ：エミール・ゾラ/ジョゼフ・シルドクラウト：アルフレッド・ドレフュス大尉/ ゲイル・ソンダーガード：ルーシー・ドレフュス/ グローリア・ホールデン：アレクサンドリン・ゾラ/ ウラジミール・ソコロフ：ポール・セザンヌ/ ドナルド・クリスピー：メートル・ラボリ/エリン・オブライエン・ムーア：ナナ/ ジョン・ライテル：大工/ ヘンリー・オニール：ピカール大佐/モーリス・カーノフスキー：アナトール・フランス/</p>
<p>画像</p>	
<p>カラー・モノクロ</p>	<p>モノクロ</p>
<p>時間</p>	<p>116分</p>
<p>ストーリー</p>	<p>若い作家エミール・ゾラは、画家のセザンヌと共に貧しい生活を送っていたが、娼婦の身の上話『ナナ』が大当たりして、次々と名作を生み出し、フランス文壇きっての名士になる。大家ゾラの自由と正義のための闘争心を再燃させたのは「ドレフュス事件」であった。フランス軍部の機密をドイツに漏らしたとしてユダヤ人陸軍大尉ドレフュスは濡れ衣を着せられ、投獄される。ドレフュス夫人から弁護を頼まれたゾラは、最初は拒むが、事の重大さに気づき、大統領に手紙を書き、新聞でドレフュスの冤罪を訴える。軍部の隠蔽工作と圧力により、ゾラは中傷罪で有罪宣告を受ける。ゾラは友人の忠告を受け入れて、ロンドンに逃れ、執筆活動を続けた結果、世界中が「ドレフュス事件」に注目し、フランス政府はドレフュスの再審を開かざるをえなくなる。フランス軍部は、再調査によって証拠捏造と偽証を認め、ドレフュスは釈放される。喜ぶゾラは、自由と正義を讃える執筆活動中の夜に一酸化炭素中毒で急死する。ゾラの葬儀で、作家アナトール・フランスが自由と正義のために捧げたゾラの偉大な生涯を讃える弔辞を読む。</p>
<p>時代設定</p>	<p>1862年～1899年</p>
<p>場所</p>	<p>フランスのパリ、フランス領ギアナ悪魔島</p>

社会背景	フランスは普仏戦争（プロイセン＝フランス戦争、1870－71）に敗れ、豊かな資源を持つアルザス・ロレーヌ地方を失う。莫大な賠償金を課されてフランスの経済は失速。普仏戦争に敗れたナポレオン3世の失脚後、第三共和制が誕生。1875年憲法制定により上院（元老院）と下院（代議院、普通選挙による）による二院制がとられる。パリ・コミューン成立により第三共和制も不安定な政治体制になる。
文化的背景	ベル・エポック（Belle Époque、「良き時代」）と呼ばれ、パリを中心とする文化が反映した華やかな時代。軍部の権力の失墜、民衆の自由と権利意識の高揚。産業各目の進展、パリの消費文化の繁栄、植民地政策の進展。
使用言語	英語
テーマ	自由と正義の尊さ、国家の圧力や上層部の陰謀に屈しない信念の大切さ。
みどころ	富も名声もすべてを得た高名な作家のゾラが、危険を顧みず、正義と自由、真実を求めて身を捧げた姿が感動を呼ぶ。
印象深いせりふ	Zola: The world about to hurl itself to destruction.....the will of nations for peace a powerful break, stopping it on the brink. You don't believe it? Wait. "To save Dreyfus, we had to challenge the might of those who dominate the world. It is not the swaggering militarists. They're but puppets that dance as the strings are pulled. It is those others, those who would ruthlessly plunge us into the bloody abyss of war to protect their power." Think of it, thousands of children sleeping peacefully tonight under the roofs of Paris, Berlin, London, all the world doomed to die horribly under some titanic battlefield unless it can be prevented. And it can be prevented! The world must be conquered, but not by force of arms, but by ideas that liberate. Then can we build it anew. Build for the humble and the wretched. That's good. I must remember that.
授業教材用 メリット	自由と正義のために闘ったゾラの偉大さとすばらしさが感動的である。フランスの自由と正義の概念は、アメリカだけでなく世界共通の人間の宝であることを示す。
授業教材用 デメリット	フランスの出来事だが、アメリカ映画であり英語が話されているのでフランス的でない。
映像入手元	エー・アール・シー/ワーナー・ホーム・ビデオ/ファーストトレーディング/
原作の有無	エミール・ゾラの伝記より
支持反応	Rotten Tomatoes 評価（批評家 75、観客 73）
キーワード	作家、エミール・ゾラ、パリ、フランス軍部、ドレフュス事件、ユダヤ人、『ナナ』、売国奴、汚名、機密情報、裁判、反逆罪、投獄、公権力乱用、不正、セザンヌ、正義、自由。

Copyright © Junko Shimizu All Rights Reserved.

★本サイトに掲載される情報の著作権は、清水純子に帰属します。

許可なく複製、改変、アップロード、掲示、送信、頒布、販売、出版等を禁止します。